

8

Captaincy



戦術、リーダーシップ、そしてキャプテンシーは、シニア・ジュニアレベル双方にとって、また選手・コーチ双方にとって、試合の中で最も重要な要素の一つである。コーチは、技術やクリケットに対する理解を高めるスケジュール管理や効果的な練習試合を組むことに責任を負っている。チームの指揮をとることに唯一の方法などない。キャプテンはいかなる状況にも対応していかなければならない。有効なのは、他のキャプテンが実際にどのようにやりくりをしているのか知ることだろう。そして、指揮をとる上で覚えておくべき最も重要なことは、複雑に物事を考えない、ということだ。

それらの技術を身につけ、他のプレイヤーの尊敬を集め（最も重要な財産である）、チームリーダーとして自分自身が良いプレイをし、ここぞというときにタイミングよく運をつかむことができれば、成功は自ずとやってくる。成功を積んでいるキャプテンは皆、程よくバランスのとれた能力と常識を兼ね備えている。

戦術 Strategies



試合の前に

チームは少なくとも試合の1時間前には集合し、攻撃・守備に備え全員で簡単な練習を行う

トスの場で

「決断を焦ってはならない。」バッティングを選択するときには、常に前もってピッチの状況を確認しなければならない。例えばピッチが雨の影響を受けている時、濡れた表面でボールがまっすぐ跳ねるのかどうか、柔らかい地面または乾燥した地面でボールが止まってしまうのか、キャプテンは確認する必要がある。ピッチを見極める上での良い方法は、表面を指で軽く押して、ボールがいく方向になぞってみることなどがある。指がピッチ表面を滑ったならばボールもその通りにいっくだろう。もし表面の土が盛り上がるようであればボールは止まりやすくなり、バッティングが難しいピッチであるといえる。

フィールド外でのリーダーシップ

「試合で選手達に最大限のサポートをしてもらうには、キャプテンは試合外で彼らに最大限のサポートをできるようにしなければならない。キャプテンとして、自分のチームは自分次第なのであり、自分の気持ちによって左右されてしまうものだと覚えていると良いだろう。それゆえ常に自分の気持ちを一定のレベルに保つことが大切である。落ち込んだ時や機嫌の悪い時、それを絶対に表に出してはならない。選手達も同じような気分になってしまうからだ。私はある若い選手がこういっただけを覚えている。オーストラリアの往年の名キャプテンリッチー・ベブノーは試合中、彼の所属チーム（ニューサウスウェールズ州代表）が劣勢であるときでさえ、非常に冷静だった。彼はいつも切り札を袖に隠していると皆が思っていた。彼が次の行動を起こすとチーム全員が、「切り札を切った、十中八九成功する」、と思った。皆ベブノーを信頼信仰していたし、彼の動きは成功すると信じていたから。」

—イアン・チャペル、元オーストラリアナショナルチームキャプテン

動機付け—チームの士気

選手達にチームの一員であることの誇りを持たせ、チームのメンバーであることの価値を与えることはとても重要である。常に重要だといわれているが、それだけに定義しづらい「チームスピリット」を育むのに、これらのことが大きな示唆を与えてくれる。キャプテンは選手達と時々チーム戦略会議を持つことはが時に有効であるといえるだろう。

守備面でのキャプテンシー

「チーム・プランは練りに練る」ボウリングで攻める、という言い回しがクリケットでは使われるが、守備側のキャプテンはそれに固執すべきである。とにかく攻める。ペースボウラーは短いオーバーで使い、レッグ・スピナーかオフ・スピナーを火消し役で使うこと。自陣のボウラーについて思慮深く観察する。現代クリケットにおいて、ファスト・ボウリングは、非常に多くのエネルギーを消費する、大変な作業である。ファスト・ボウラーは長時間投げさせてはならず、特にオープニングで投球するとき、この法則をあてはめるべきだ。

攻撃面でのキャプテンシー

「できる限りキャプテンはチームと共にあれ。」これがチームを勝たせる秘訣である。勝つためには勝つために必要な時間を常に頭の中で描いている必要がある。バッティング時には常に主たる戦略をもつこと。1オーバーで3ラン、できるのであれば4ラン、5ラン。イニング全体を見据えたプランでなければならない。



一般的なキャプテンシー

1. Laws of Cricketに精通していること
2. 全体的な戦略に基づいて選手達と話し合い、助言や補助ができること
3. 自ら模範となり、試合内外で選手達の尊敬、忠誠、自信を得られるよう努めること
4. チームを鼓舞して盛り立てていくこと
5. 選手達を励まし、彼らに自信とさらなる情熱を持たせること
6. 選手達の性格と気性を見抜くこと
7. 自己中心的でないこと（特に重要）

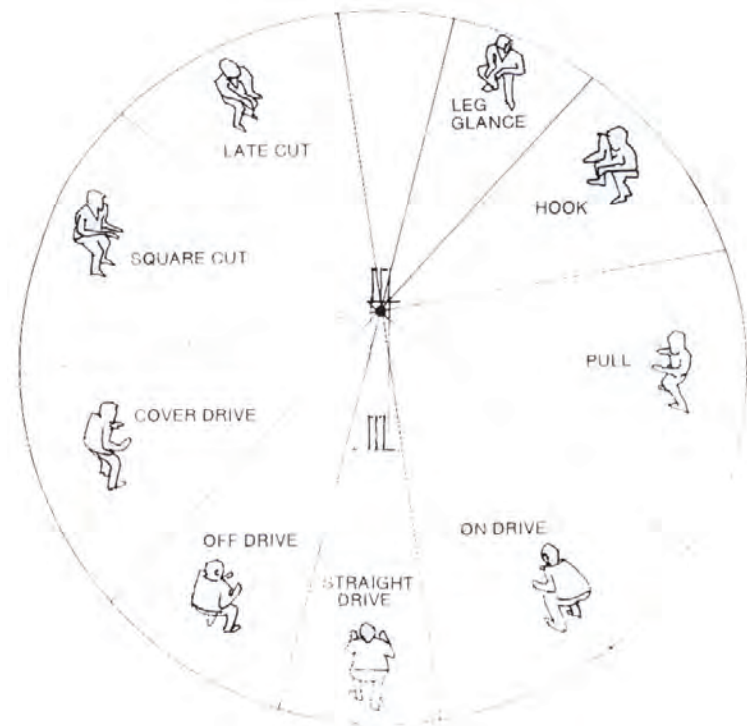
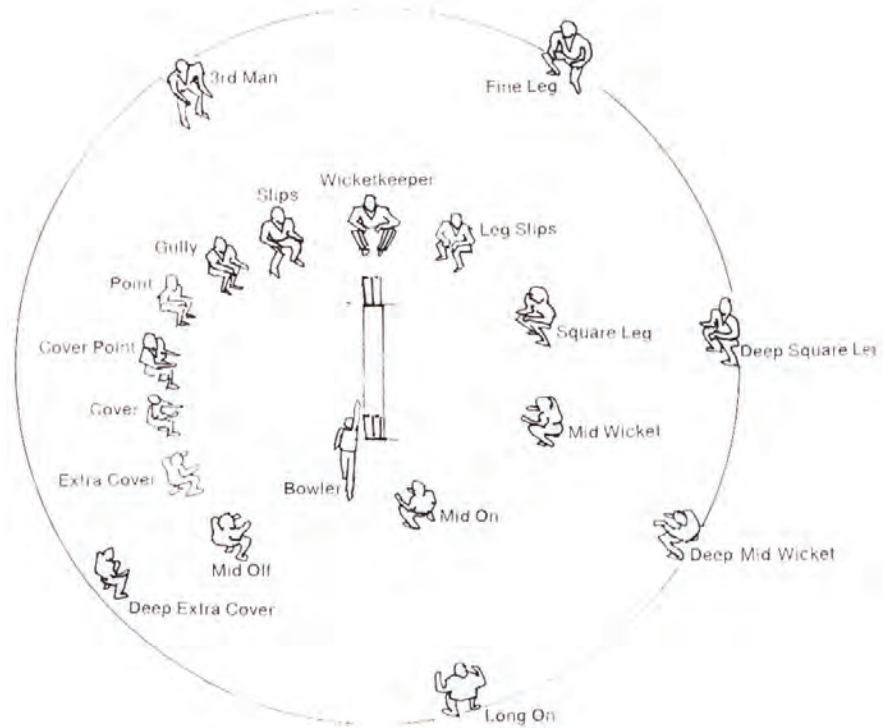
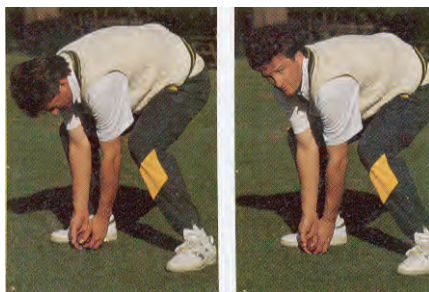
守備

In The Field

コーチは守備戦術に細心の注意を払い、チーム全体で段階的に高めていかねばならない。選手達は自信を持ってボールに向かい、中継に入ったフィールダーやウィケット・キーパーに対して返球することに慣れていなければならない。ランアウトやキャッチは「たまたま起こった」というのではいけない。それぞれのバッツマンが守備側からプレッシャーを受けるようにしなければならないのである。

また明らかに戦術性が高いといえる側面は「野手の配置」である。例えば、バッツマンがよく打つ方向に人を置いて打球を止めたり、広くスペースを取って大きく打ち上げるのを誘い出したり、さまざまな目的をもって野手を配置することが考えられる。俊敏なフィールダーは打球を止め、素早くスタンプにボールを返せる位置をとるとよい、なども一つの示唆に富んだセオリーである。

ともあれ、フィールディング戦術は非常に面白く、やりがいのある戦術ゲームだということができる。



イメージ Images

キャプテンシーは時に本能的に、ある局面での局地的な戦術として現れるが、バッティングやボウリングと同様に、基本が大事である。



キーポイント

- 完全主義者は良きキャプテンになりえない。
- 良きキャプテンは心理的な洞察力が高い。心理学者である
- 良きキャプテンはチームメイトにできないことを要求しない
- キャプテンはクリケットターであると共に人として一貫していなければならない

—ロッド・マーシュ

- 自チーム分の選手たちについて、技術的・精神的な長所・短所を知ること
- 同様に、対戦相手の長所・短所を知ること
- 対戦相手が最もよく犯すアウトのなり方をスコアシートから研究すること
- 自分の目的を達成すること

—ジョン・ベブノー

- 「先頭に立つ」、そして選手達と和を持つこと
- 能力、試合条件に対する知識
- チームの士気意気を盛り立てる
- 強固な自律心（精神的・肉体的）
- 自信を自分と選手達に与えられる能力

—バリー・リチャーズ

- 試合内外における責任—戦略、競争心、地域社会やチームと若手の模範となるように
- 「クリケット試合」というものの理解 or 「試合」そのものの理解
- 意思決定と実行
- 人を動かし、各々から最高のものを引き出すこと

—ジョン・インヴェラリティ

アンパイアリングとルール(the Laws)

Umpiring & The Laws

アンパイアの第一の責任は、試合をルール(the Laws)に則り、厳正な規律をもって進行することである。そして、その為にはルールに対する深い理解を持ち、その時々に応じて正しいルールの解釈を適用しなければならない。この第一の責任は試合に関わる全ての人(アンパイア、選手、コーチ、試合開催者)が共通して持たねばならないものである。

良きコーチはルールに定められている「クリケットの精神(the Spirit of Cricket)」に則ってプレイをさせなければならない。常日頃よりルール及びローカルルールを理解しておくことに努めるとともに、当事は「Laws of Cricket」とローカルルールの最新版を携帯しておくことを勧める。

「現役時代、私は、アンパイアだけでなく選手もルールについて体系的な知識を備えていなければならないと常に意識してきた。ファースト・クラス(州対抗試合が行われるレベル)に上がりた頃の頃、ルールを勉強し、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州アンパイア協会の試験にも合格した。アンパイアリングの知識は後々役に立ち、特に私がキャプテンを務めていたところに非常に役に立った。私は他の全ての選手に対しルールの知識を深めるよう奨励してきた。そうすることで、スムーズな試合進行ができ、非常に難しい判定の際、アンパイアと協力することで、正しい判定に導けるからだ。

バッツマンに対しアウト・ノットアウトの判定を下すアンパイアの決断はクリケットの試合においてとても重要なものだ。そういった意味で、クリケットは他のスポーツに比べユニークであると思うし、だからこそ、選手達は徒党を組んで脅しをかけるのではなく、正確な判断ができるようアンパイアを手助けしなくてはならないのだ。」

— サー・ドナルド・ブラッドマン

(豪州クリケット協会アンパイアマニュアル「What's Your Decision」前書きより引用)

ルールと各大会等の特別ルールに精通したコーチは、チームにアドバンテージを与えられるだけでなく、このスポーツの伝統・価値・精神をチーム内に浸透させていく上で重要な役割を果たすことができる。キャプテンとコーチはクリケットのアンパイアが要求する多くのことに気づくだろう。そして、その中でも特にアンパイアがキャプテンとコーチに期待するもの—それは「良識」である。これはよく「不文律—Law43」ともいわれる。

コーチはルールの理解を高めるにあたり、以下のことが有効である。

- ルール勉強会に参加する
- ルールを研究する
- アンパイアにチームの練習に参加してもらう
- 練習中、選手にアンパイアの役割をやらせる
- 練習中または新聞記事などを用いてランダムにクイズを出す

土曜の午後、手当てをもらっているアンパイアもいるだろうが、アンパイアは皆真剣にゲームに参加している。なぜなら皆このスポーツを愛しているからである。他のチームのプレイヤーやマネージャー、コーチ、(特にジュニアチームでは)父兄の方々もアンパイアをしている。ルールそのものやアンパイアの役割を正しく理解することで、クリケットそのものがより競争的に、熱心に、そして正しい精神でプレイされることになるのはいうまでもない。

Law42.1: キャプテンの責任

キャプテンは、いかなる時にもルールにあるクリケットの精神に基づいて試合を進行させる責任がある。

ノー・ボールのルール

ノーボールはクリケットにおいて最も犯してはいけない反則である。相手にたやすく得点を与えると共に、ボウラーの配慮の無さや細部への不注意を自ら露呈してしまうことになるからだ。

ノーボールを減らすには、練習においてアンパイア（順番待ちのバッツマン等）を立たせ、ボウラーにクリースの位置を注意させ、それを反復練習することが重要である。

コーチの参考に現在のノー・ボールのルールを説明する。“Laws of Cricket”全般に言えることだが、単にその条文を教えるだけでなく、実際の例を用いてプレイヤーを教育することが必要だ。現在のノー・ボールのルールは以下の通りである。

ノー・ボール - ボウラーが以下のことをしたときにノー・ボールが宣告される。

- ひじを使って投げたとき
- 前足が、地面についているか、空中にいる状態で、ホッピング・クリースよりも後ろにないとき
- 後ろ足がリターン・クリースの中になく、（そしてリターン・クリースに触れていない）とき

ノー・ボールがコールされたときは、ボールは“デッド”にはならずプレイは続行される。バッツマンはノー・ボールを打ってもよく、そのとき得たランはそのバッツマンの打点に加算される。しかし、ノー・ボール以外のラン（通常バイなどとして記録される）はノー・ボールとして加算され、それ以外の得点がないときは1ランのみがスコアされる。ノー・ボールがコールされても、ストライカー（実際に打撃を行っているバッツマン）が“hit the ball twice（2度打ち）”を犯せばアウトになり、また、ストライカー・ノンストライカーいずれかが“オブストラクティング・ザ・フィールド（守備妨害）”、“ハンドリング・ザ・ボール（ボール操作）”及び“ランアウト”を犯せばそれぞれアウトになる。

注： ノー・ボールを投げないようにするためには、ボウラーはポッピング・クリースに前足のつま先が触れるくらいで投げると良い。